

## 令和8年度 教育研究推進計画

### 学校教育目標

- 小中一貫教育目標 : 自ら学び 考え 自立した行動ができる生徒の育成
- 吉舎中学校教育目標 : 志高く学び 地域に貢献する生徒の育成

## 1 研究主題

自分の考えをもち、主体的に学びに向かう生徒の育成  
～書く・説明する活動を取り入れた授業づくりを通して～

## 2 研究主題設定の理由

本校の中学校区では、小中一貫教育目標を「自ら学び 考え 自立した行動ができる生徒の育成」とし、生徒一人一人が自分の思いを表現することができる学校づくりを目指して取り組みを進めている。また、吉舎中学校区において育てたい資質能力を「主体性」「コミュニケーション能力」「志向性」とし、様々な教育活動を通して育成していくことを目指している。

昨年度から、本校は「自分の考えをもち、主体的に学びに向かう生徒の育成～書く・説明する活動を取り入れた授業づくりを通して～」をテーマに研究してきた。中学校の生徒アンケートでは「書く・説明する活動が自分の力につながっていると思う」という質問についての肯定的回答が、7月は全校の90%、12月は94%と4%の上昇がみられた。また、12月の「いろいろな場面で、自分の思いを表現する力が身に付いてきたと思う」の質問では、94%の生徒が肯定的評価の回答をした。また、令和7年度三次市学力到達度、検査において、国語科では1学年、2学年ともにすべての「文章を書く」の問題において正答率が全国よりも高かった。1学年においては、目標値、全国ともに5ポイント以上高かった。一方、令和7年度三次市学力到達度調査において、各教科の知識・技能、思考・判断・表現の全国平均と本校平均を比較したところ、国語科第2学年では知識・技能-6.6ポイント、思考・判断・表現+0.4ポイントと英語科第1学年では知識・技能-6.8ポイント、思考・判断・表現+3.4ポイント、英語科第2学年では知識・技能-4.6ポイント、思考・判断・表現+3.4ポイントと、思考・判断・表現では全国平均を上回っているにもかかわらず、知識・技能は全国平均を下回っている結果となった。また、理科の第1学年についても全国平均に対しての本校の平均が知識・技能は-11.3ポイント、思考・判断・表現は-8.2ポイントと、知識・技能の方が全国平均を大きく下回っている結果となった。このことから、本校は「書く・説明するための素地（基礎基本を大切にした既習事項）の定着」に課題があることが分かった。

この課題を改善するために、主に以下の2ポイントに取り組む。1つ目は、自分の考えをもち、主体的に学びに向かうことができる授業づくりである。自分の考えをもつために、日々の授業において、生徒にとって「何を学ぶのか」「何を考えるのか」が明確で、既習（自分がもっている知識・技能）をもとに自分の考えをもつことができる授業づくりを行う。また、それらを整理するために書く・説明する活動を取り入れる。2つ目に、個に応じた指導の模索である。今年度から導入される「未来シード」の活用等、生徒が自分で目標を設定し、自分に合ったペースや内容で学び、振り返ることができる学習活動を通して、より生徒が学習の楽しさや面白さを実感し、個々の目標に向かって目的をもって学習することができると考える。これらのことを通して、夢や目標をもち、主体的に学びに向かう生徒を育成することができると考え、研究主題を設定した。そして、次年度以降では自分の考えと他者の考えを照らし合わせて深め、対話が生まれ、指摘し合いながら深い学びへとつながっていく生徒の育成を目指していく。

## 3 研究仮説

1つ目に、自分の考えをもつために、日々の授業において、生徒にとって「何を学ぶのか」「何を考え

るのか」が明確で、既習（自分がもっている知識・技能）をもとに自分の考えをもつことができる授業づくりを行い、書く・説明する活動を通して自分の考えを整理することで、基礎基本を大切にしたい既習事項の定着を図る。2つ目に、生徒が自分で目標を設定し、自分に合ったペースや内容で学び、振り返ることができる学習活動を通して、より生徒が学習の楽しさや面白さを実感し、個々の目標に向かって目的をもって学習することができる。これらのことを通して、夢や目標をもち、主体的に学びに向かう生徒を育成することができると思う。

#### 4 研究の概要と検証計画

##### 〈概要〉

##### (1) 自分の考えをもち、主体的に学びに向かうことができる授業づくり

- ・自分の考えをもつことができる。

生徒にとって「何を学ぶのか」「何を考えるのか」が明確で、既習（自分がもっている知識・技能）をもとに自分の考えをもつことができる。

- ・書く・説明する・活動を取り入れる。

既習事項や他教科、身近な出来事などに関連付けて考え、自分の言葉で書く・説明する活動を取り入れ、自分の考えと他者の考えを比較し対話する活動へつなげる。

##### (2) 個に応じた指導

- ・指導方法や教材、教具の工夫、ICTの活用
- ・中間試験、期末試験週間に合わせた学習計画表作成
- ・家庭学習のパターンを提示

##### (3) 主体的で前向きに表現をする学校風土の醸成

- ・HRで「1分間スピーチ」、「質問タイム」の実施
- ・「表現」する多様な機会の設定

授業、学校行事（体育祭、文化祭、きさ教育の日、立志式等）や生徒会活動の充実

##### 〈検証計画〉

○各種学力・学習状況調査

○生徒アンケート（7月、12月）

「もっと考えてみたい」「もっと学んでみたいと思う」

#### 5 研修計画

##### (1) 校内研修会

- ・全教職員、年間1回以上の授業研究会の実施。
- ・外部講師の招聘による授業研究と研修

##### (2) 小中連携授業研究会

##### (3) 年間を通じた継続的な取組の実施（1分間スピーチ、班の話し合い）

##### (4) 学校行事における育成したい生徒像と関連付けた指導の実践

#### 6 具体的な取組

| 月     | 実施内容                                         | 備考             |
|-------|----------------------------------------------|----------------|
| 4     | 計画立案                                         |                |
| 5     | 小中合同研修会（研究方針の確認）（5/7 吉舎中学校）                  |                |
| 5（～2） | 校内授業研究会（全員一人1回実施）                            | 三次市教育委員会指導主事招聘 |
| 6     | ★小中合同授業研究（6/9吉舎小学校）                          |                |
| 7     | 生徒アンケート                                      |                |
| 8     | 小中合同研修会授業提案に向けて校内研修                          |                |
| 10    | ★小中合同授業研究（10/21吉舎中学校）                        |                |
| 12    | 生徒アンケート                                      |                |
| 2     | 事務局会 アセスメント調査<br>小中合同研修年度末総会（今年度のまとめ等）（2/10） |                |
| 3     | 次年度に向けた計画の見直し・改善                             |                |

